

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アイジーエヴァース瀬川谷依佐美地区新本社工場計画	階数	地下0階地上2階
建設地	愛知県刈谷市半城土町生出104-14	構造	S造
用途地域	指定なし(都市計画区域内 非線引き区域)	平均居住人員	77人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年4月 予定	評価の実施日	2022年8月16日
敷地面積	7,435 m ²	作成者	安田健太郎
建築面積	2,617 m ²	確認日	2022年8月16日
延床面積	3,439 m ²	確認者	安田健太郎



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値	138 (kg-CO ₂ /年・m ²)	100%
②建築物の取組み	92	95%
③上記+②以外の	46	95%
④上記+	0	95%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.0

項目	スコア
音環境	3.0
温熱環境	2.6
光・視環境	3.1
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

項目	スコア
機能性	2.7
耐用性	3.0
対応性	3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

項目	スコア
生物環境	3.0
まちなみ	3.0
地域性	3.0

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 2.9

項目	スコア
建物外皮の	N.A.
自然エネ	3.0
設備システ	2.3
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

項目	スコア
水資源	3.4
非再生材料の	3.2
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

項目	スコア
地球温暖化	3.1
地域環境	3.1
周辺環境	3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p>3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p>3.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>34.2 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	34.2 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	34.2 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p>3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p>1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質														
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 外皮性能														
3 ゾーン別制御性														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境														
3.1 昼光利用														
1 昼光率														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 昼光制御														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
事務室、CAD室750lxを確保。														
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
F☆☆☆☆の材料を使用。														
4.2 換気														
1 換気量														
シックハウス対策の換気量以上を確保する換気機器を選定。														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
給気ガラリと排気ガラリの離隔を十分に確保。														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能														
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画														
独自														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観 (天井高)														
CH=2700														
多目的ホールをリフレッシュスペースとして利用想定。自動販売機を2台設置予定。														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性														
2.1 耐震・免震・制震・制振														
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														
2 免震・制震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														
②														
消火:SGP白(C)、排水:VP(B)、給水VLP(B)を使用。Eは未使用。														
2.4 信頼性														
1 空調・換気設備														
2 給排水・衛生設備														
3 電気設備														
4 機械・配管支持方法														
5 通信・情報設備														
②														

3 対応性・更新性			0.2	3.9	0.29	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり			0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	4.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.0	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②	-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.37		-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	2.9
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	2.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.93	3.0	2.3	0.57		-	-	2.3
4 効率的運用			0.2	3.0	0.26		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.2	0.63		-	-	3.2
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	3.0	4.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-	
1	消火剤		-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		-	3.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	-	3.1	0.33		-	-	3.1
2 地域環境への配慮			0.3	3.1	0.33		-	-	3.1
2.1 大気汚染防止			-	5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自	-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自	-	5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		-	3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自	-	3.0	0.50		-	-	
2	振動	独自	-	3.0	0.50		-	-	
3	悪臭		-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制		-	3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-		-	-	
3	日照障害の抑制		-	3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		-	3.0	0.70		-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10
② 資源の有効活用			3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.19
③ 敷地内の緑化			3.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.11
			外構緑化:34.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	敷地は国道419号線に隣接し、周辺には低層の建物や田んぼがある。そのため、周辺環境との調和性に配慮した新工場の計画としている。また、敷地内に配置されている緑地を生かすようにしている。
Q1 室内環境	事務所エリアは十分な照度、換気量を確保できるよう計画しており、材料についてもF☆☆☆☆を使用し、汚染物質発生の抑制に努めている。
Q2 サービス性能	1、2階ともにゆとりを持った階高としている。特に工場エリアは作業を円滑に進められるよう十分な高さを設けている。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地外周部に緑地帯を設けている。特に敷地西側は既存の中高木を生かす計画としている。
LR1 エネルギー	照明器具を全てLEDとすることで、省エネルギー化を計っている。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓及び節水型便器を採用している。ODP=0の冷媒を採用している。
LR3 敷地外環境	敷地導入路の幅を十分にかつ複数箇所設け、駐輪場・駐車場及び荷捌用車両のスペースも十分に設けることで、周辺交通負荷の抑制を図る。
その他	